

特集

# にごり湯の至福

世界の活火山のうち7%を有する日本は、  
それゆえに火山性の温泉も多く、  
湯治の場、または観光・娯楽の地として親しまれている。  
なかでも、乳白色をはじめ、鉄分を多く含む茶褐色や赤、  
鮮やかな緑や青の湯などの色彩をもつ「にごり湯」は、  
温泉成分が濃く、効能が強だけでなく、  
温泉情緒を高め、身も心も癒してくれる。  
今回は「にごり湯」を特集する。

みよしの  
明礬温泉「岡本屋旅館」の露天  
風呂。目にも鮮やかな青磁色  
の湯が体の芯まで染み渡り、  
心地よい開放感に包まれる。

## 「自称“温泉俳優”」の始まり

熊本の「満願寺温泉」に「川湯」という川の中に湧いている温泉があります。道行く人から丸見えの露天風呂なんですけどね。そのお湯があまりに気持ち良くて、つい口から出ちゃいました。「ああ俺、温泉俳優になってもいい」って。それが「自称“温泉俳優”原田龍二」の始まりです(笑)。BS-TBSの『それがしりたい』という旅番組のロケでしたが、ほかの旅番組も合わせ、ずいぶんいろいろな温泉に行かせてもらいました。

ただ、そもそも温泉好きになったルーツは何かと考えると、小学校の卒業式の日友達と行った銭湯かもしれません。そこには近所のお爺ちゃんもいれば知らない人もいて、当たり前だけどみんな裸で同じお湯に浸かっているわけですね。その非日常の大衆感がなんだかたまたまなくて、みんなではしゃいだことを覚えています。長いこと封印されていたその感覚が40代になって甦り、今またしっかり楽しんでます。

普通、旅番組は大まかなスケジュールは決まっていますが、『それがしりたい

い』は予定調和はいっさいなし。完全にぶっつけ本番です。どこに行くか、何を食べるかを決めるのも、宿のアポイントを取るのも全部自分。その自由さが僕にはすごく心地いい。そんな旅の行程すべてを含め、偶然たどり着いた温泉で体を伸ばすのは最高の気分です。都会暮らしや決まりごとの多い世の中で、知らず知らずに溜まっていくストレスというアカを、温泉が落とししてくれる気がします。

## 偶然出くわす秘湯が最高

旅番組では行き当たりばったりですが、幸せなことに僕はことごとくいい温泉に巡り合っています。一番良かったのは、番組で最初に行った長野県の雨飾高原の露天風呂。「雨飾」という地名の響きに惹かれてバスを降りたら、浴衣姿のご夫婦が歩いていました。「どちらへ?」と声を掛けたら「この先にいいお湯がある」と言われたのでついて行ったら、林の中に温泉がポツン

とあって。脱衣所も目隠しもない野湯で、お客さんは我々だけ。最高に気持ちのいい秘湯でした。いまはネット社会だから、秘湯と言われながらかなりメジャーだったりしますよね。本当の秘湯は自分の足で探さないとなかなかないと思うから、いい温泉に偶然出くわすとうれしくなります。

それから僕の場合は、泉質もさることながら付随する宿の雰囲気や食事も大事なポイント。そういう点では電気が通っていない携帯もつながら

なかった、青森の山奥にある「青荷温泉」の「ランプの宿」は貴重な経験でした。秋田の「乳頭温泉」の「鶴の湯」は給仕してくれた従業員さんが味わい深い方で、いただいた「山の芋鍋」が本当においしかったです。名物だそうで、思い出すたびに食べたくなります。

## 温泉だけでなく、人との出会いも魅力

道中も印象深いことがいっぱいあります。下校途中の小学生たちに気に入ら

れて、伝統工芸品を作っている方の作業場に連れて行ってもらったのも良かったし、意気投合した方のお宅に一晚泊めていただいたことも。やっぱり人との出会いが一番面白いかな。捨てる神あれば拾う神あり。旅に失敗はないと思っているので、捨てられたり拾われたりが楽しいですね。それに、ドラマの仕事をするときに「出会ったあの人たち、見てくれてるかな」ってよく思い浮かぶんですよ。応援してくれているだろうから頑張らなきゃって、いつも力をもらっています。

僕にとって旅は、昔からなくてはならないもの。モノを見る目を曇らせたくないという思いが常にあるのですが、旅って自分を映す鏡であり、同時に旅に出ることでその鏡を磨くことができるようにも感じます。昔は海外の秘境によく行きましたが、いま一番興味があるのは日本。いい温泉もまだまだいっぱいあると思います。僕は内湯も嫌いではないけど、やっぱり惹かれるのは秘湯の露天風呂。その日その時限りの自然の風景をよく見て、匂いをかいで、音を聞いて、そしてお湯を感じる。五感で温泉を受けとめることで、精神がより解放される気がします。温泉、最高です。

# I N T E R V I E W 温泉受けとめる五感で

俳優

原田龍二



「満願寺温泉」の「川湯」にて。



はらだ・りゅうじ●1970(昭和45)年、東京生まれ。1992(平成4)年にテレビドラマでデビュー。出演ドラマは『相棒』(テレビ朝日系)、『水戸黄門』、『南町奉行事件帖 怒れ! 求馬』(TBS系)、NHK-BSプレミアム『子連れ信兵衛』、『土曜ワイド 狩矢父娘シリーズ』ほか。バラエティは『世界ウルルン滞在記』(TBS系)、『それがしりたい ニッポンおもしろいネ』(BS-TBS)の「ぶっつけ本番! 路線バスの旅」シリーズ、『日本の旬を行く! 路線バスの旅』(BS-TBS)など。2016年1月放映の新春特別番組『夢の地球大横断! 2016』(BS-TBS)では9歳の長女とオーストラリアをふたり旅。映画は『かあちゃん』、『相棒 劇場版II』ほか。舞台は『大奥』、『水戸黄門』ほか。

●BRO.原田龍二オフィシャルブログ  
<http://ameblo.jp/bro2010/>



「いちのいで会館」の「金鉱の湯」は木立の中にあり、流れ落ちる滝を眺めながら浸ることができる。



上:「いちのいで会館」の「景観の湯」。別府湾や別府の町が一望できる。  
下:「いちのいで会館」の「金鉱の湯」。隣同士で湯の色が違うのは掃除のタイミングによるもの。左の透明の湯は掃除をした直後で、右は2~3日経った湯。「景観の湯」と「金鉱の湯」は奇数日と偶数日で男女が入れ替わる。

「いちのいで会館」の「景観の湯」。2つの岩風呂と温泉プールがあり、それぞれ色が異なる。源泉は同じ。



明礬温泉のシンボル・明礬橋を間近に眺めることができる「岡本屋旅館」。周囲は緑が生い茂っている。



# 九州にぎり湯

多くの名湯、秘湯が集まる九州。露天風呂で雄大な景観を眺めながら。泉質や効能をじっくりと味わいながら。あるいは人との触れ合いを楽しみながら。良質なお湯に浸れば体も心も温まり、いつしか至福の境地に。

温泉大国九州で、源泉かけ流しの「にぎり湯」を巡る。



霧島温泉郷。九州の温泉街はあちこちから白い湯気が立ち上っている。



ノスタルジックな雰囲気の黒川温泉。平日も観光客で賑わっている。

## 神秘的な青い湯と絶景——日本を代表する温泉地、別府

大分空港から車で1時間弱。見えてくるのは立ち上るたくさんの白い湯けむりと、すぐそばまで迫る山々。日本を代表する温泉地、別府である。その風情ある風景は、冬の冷たい空気とは対照的に、気持ちをほっこりさせてくれる。

別府は、11種類ある泉質のうち10種が湧き、人が入浴できる温泉の湧出量は世界一という。その自然の恩恵に与ろうと、日本各地はもとより、外国からの観光客も増えている。特徴が異なる8つの温泉郷「別府」「浜脇」「亀川」「鉄輪」「柴石」「明礬」「観海寺」「堀

田」は、通称「別府八湯」。まずは観海寺温泉へと向かう。

町の中心を少しはずれ、木々に囲まれた高台に建つのが「いちのいで会館」だ。仕出し業者が営む温泉施設で、自慢はコバルトブルーの湯。泉質はナトリウム塩化物泉で、美肌で知られるメタケイ酸が非常に多く含まれているため温泉通や女性のファンも多い。

「景観の湯」と「金鉱の湯」の露天風呂が2カ所。「景観の湯」からは別府湾や別府の町を一望でき、天気良ければ四国の佐田岬まではっきり見渡すことができる。珍しいブルーの湯に浸かりながら絶景を眺めれば、そこはまるで別天地のよう。一方の「金鉱の湯」は

木立に抱かれ、山肌を流れ落ちる滝が目にも耳にも心地いい。また、「景観の湯」にある四角い大きな露天風呂は、もともとは代表取締役の生永利男さんが、30年ほど前に娘さんのために作った温泉プール。多忙で、ともに過ごす時間が少なかったため、泳ぎを教えながら親子のコミュニケーションをはかっていたという愛情溢れる場なのである。

それにしても、湯の色が少しずつ違うのはなぜか。生永さんに聞いてみた。「源泉自体は無色透明ですが、日を追うごとにコバルトブルー、青乳色に変化していきます。4つのお風呂は週に2回掃除をしますが、青いお湯を楽しみに来られる方も多いので、掃除のタイミングをずらして、必ずどこかは色が残るようにしています」とのこと。

湯浴みの後のお楽しみは、大分名物



「いちのいで会館」のだんご汁定食。温泉と食事がセットで1,500円。5月~8月は松華堂弁当になる。

のだんご汁だ。「いちのいで会館」は入浴とだんご汁の食事がセットになっているので、お腹を空かせて行くのがお勧め。また、ここの温泉は飲用も可能。塩味の効いた出し汁のような温泉水はリチウムイオンが多いことから、精神科医や大学教授といった専門家からも注目されているようだ。

「別府八湯」で標高の一番高い位置にあるのが明礬温泉。始まりは鎌倉時代といわれている。その明礬温泉のシンボルで、美しいアーチを描く明礬橋を眺められる山間に建つのが、創業1875(明治8)年の老舗「岡本屋旅館」だ。

日本庭園には男女1つずつの露天風呂。いずれの岩風呂も美しい青磁色の湯を湛え、手入れの行き届いた庭園とともに上品な趣を醸し出している。やわらかなお湯は硫黄成分が多く含まれた明礬硫黄泉で、色味や濁り具合は季節や気温によって変わるといふ。角質や汚れを落としてくれる効果があるため、風呂から上がると肌がツルツルに。明礬温泉を少し下ったところには保湿の湯として知られる鉄輪温泉があり、「ここでツルツルになって、下でしっとりという温泉のはしごも人気ですよ」



「岡本屋旅館」は庭園露天風呂が男女1つずつ。角質や汚れを取ってくれる「美肌の湯」としても人気。

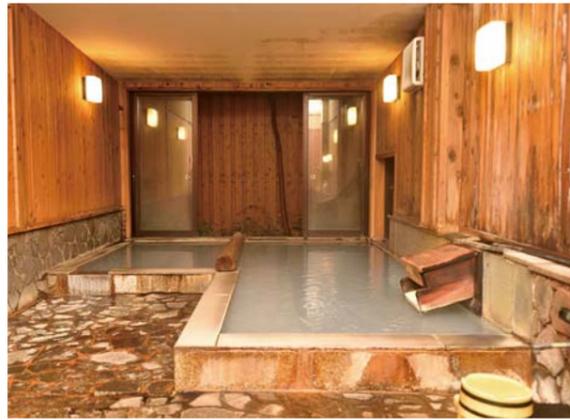
と女将の岩瀬伸子さん。

客の半分は関東からで、リウマチの療養で定期的に訪れる人もいます。

### 熊本の歴史ある温泉郷—— 黒川温泉と地獄温泉

大分県からお隣の熊本県へ。阿蘇の山懐に抱かれた自然豊かな南小国町の谷合には、25軒の温泉宿が建ち並ぶ。人気の黒川温泉である。

夕暮れともなれば旅館や土産物店にやわらかいオレンジ色の明かりが灯り、のんびりと散策を楽しむ浴衣姿の観光客の姿。山里の温泉街ならではのノスタルジックな光景と絶え間なく聞こえ



左:「和風旅館美里」の内湯は、ほんのり白濁。硫黄泉で皮膚病や冷え性など多くの効能を持つ。  
右:「和風旅館美里」の露天風呂。色やにごり具合は日によって変わり、この時はほとんどにごりは見られなかった。温度はかなり熱め。

る川音は、都会から訪れる者の心を癒してくれる。どの宿も自家源泉を持ち、ふんだんに源泉かけ流しを行なっているという。

そんな黒川で唯一、湯の色が変わるというのが「和風旅館 美里」。日や時間によって湯が無色透明だったり、白くにごったり、時には青みがかったりと変化するそう。宿泊した日は内湯はやや白濁し、露天風呂は透明だった。「色の変化は季節や気温は関係ないようで、本当に不思議です」と仲居さんが言うように、入るたびに「いまは何色

だろう」と楽しみにする温泉だ。肌の蘇生効果が高いため傷痕を治してくれるなどの効果があり、体もよく温まる。

黒川温泉は宿ごとで泉質が異なるので、違いを楽しむ“湯めぐり”を試すのもいいだろう。

\* \*

阿蘇五岳烏帽子岳の中腹、標高700mにある地獄温泉は、200年前から湯治で親しまれてきた名湯。「清風荘」は、いまも長期滞在する客や毎日通ってくる客が絶えないという。

湯は「すずめの湯」「元湯」「新湯」



「清風荘」の「すずめの湯」は足元から源泉が湧き出ている。加水もしていない自然のままの状態、やや墨色がかった白濁の湯。



「湯楽亭」の炭酸泉の赤湯。ここから大洞窟風呂に行ける。夜と朝で男女が入れ替わるので、宿泊すれば両方が楽しめる。

「露天岩風呂」「仇討ちの湯」の5つ。代表的な「すずめの湯」は、地中から源泉がブクブクと音を立てて湧き出している。湯船は太い木枠で仕切られ「あつめ」と「ぬるめ」があるが、加水も温度調節もしていないというから驚きだ。温泉は鮮度が高いほど効果もあるというから、湧き出たばかりのお湯を求める湯治客が絶えないのも納得。リウマチやアトピー性皮膚炎、慢性の気管支疾患に効果があるという。なにより、灰色がかった濃い白濁湯がいかにも効きそうである。

「すずめの湯」は混浴だが、夜8時半から9時半は女性専用になるので、女性もゆっくり入浴することができる。湯治で来ていた女性客が「底に泥がたま



「清風荘」には混浴の「すずめの湯」のほかに、女性専用露天風呂や内湯、貸し切り露天風呂なども。湯治棟もある。

っていけば泥パックもできますよ」と教えてくれた。「地獄」の名前とは反対に、健康にも美容にもうれしい温泉である。

### 自慢は赤湯の洞窟風呂—— 天草の弓ヶ浜温泉

熊本県の西端。天草諸島の玄関口で、海と山の大自然に恵まれた上天草は天

然温泉の宝庫。温泉宿が点在するなか、大洞窟風呂で人気を集めるのが弓ヶ浜温泉の「湯楽亭」だ。鉄分の多い炭酸泉の「赤湯」と、無色透明で単純泉の「白湯」の2つを楽しめる点も魅力。すぐそばに有明海が広がり、ほのかに磯の香り漂う温泉宿である。

「白湯」といわれる無色の内湯の先にあるのが、褐色の「赤湯」を湛えた大浴場。床は黄土色の温泉成分の岩石が



「湯楽亭」の大洞窟風呂。神秘的な雰囲気が漂いパワースポットとの噂も。湯の華が大量に沈殿している。



「湯楽亭」の露天風呂は男女で趣き異なる。炭酸泉なので、露天はややぬるい。



「湯楽亭」の内湯。いたるところに温泉成分の炭酸カルシウムがたまり、奇怪な様相を呈している。



「旅行人山荘」の貸し切り露天風呂「もみじの湯」。木々が色づく紅葉シーズンはもちろん、1年を通して自然に癒される。



「旅行人山荘」の貸し切り露天風呂「ひのきの湯」。予約者専用の遊歩道を進み、「鹿は入浴禁止」と書かれた看板の先にある。



「旅行人山荘」でもっとも人気の貸し切り露天風呂「赤松の湯」。広々とした岩風呂が2つあり、色も微妙に異なる。サザンカの白い花びらが湯に舞い落ちる様子も美しい。運が良ければ鹿と出会えるかも……。

びっしりで、湯船の湯溜まりにはポコポコと豪快な音を立てて源泉が湧き出し、自然のダイナミズムが感じられる。赤湯が湧出したのは20年前。最初の5年くらいは鉄分が多く真っ赤だったが、徐々に薄まり、現在は炭酸カルシウムが増えて床や壁に1年に5cmもこびり付くそうだ。

自慢の大洞窟風呂はさらにその先。狭い洞門をくぐると中は意外と広い。洞窟の両端がそれぞれ男女の入り口になっていて、以前は中でつながっていたそうだが、いまはしっかりと仕切りが設けられている。先客の親子連れが「これだけの洞窟を家族で掘ったっていうからすごいね」と感心していた。

実はこの洞窟温泉は、「湯楽亭」の家族と従業員が半年近くかけて手掘りしたもの。全長は33m。電球がほのかに照らす洞窟内部はとても神秘的で、湯の華を踏みしめて歩くと炭酸泉特有

の気泡が肌に付く。自然のままの地球の営みを感じられる秘湯である。

### 霧島の雄大な自然に抱かれ、乳白色の湯に浸かる

天草から高速道路を走り、鹿児島県へ。目的地は、霧島連山の麓から良質の温泉が湧き出る霧島温泉郷。霧島の地名の由来は“霧の海に浮かぶ島”だそうだが、そんな絶景との出会いも楽しみに訪れたい温泉地である。

桜島や錦江湾を望む丘の上に建つ「旅行人山荘」は、まさに自然と一体になれる宿。ひと山を買取ったという5万坪の敷地には散策路が敷かれ、小鳥のさえずりを聞きながら四季折々の自然に触れることができる。

大浴場や露天風呂で単純泉と硫黄泉が楽しめるが、なかでもお勧めは貸し切りの露天風呂「赤松の湯」。木々に囲

まれた小道を進んだ先に、2つの岩風呂がある。薄い乳白色の湯に木漏れ日が降り注ぎ、聞こえるのは温泉の水音だけ。浸かっていると、なんだか時間が経つのを忘れてしまいそうである。朝や夕方には野生の鹿がすぐ近くまでやって来ることもあるとか。雪が降った時の景観もまた素晴らしいという。

この「赤松の湯」はテレビCMの舞台になったこともあり、常に予約がいっぱいということなので早期の予約がおすすめ。同じ乳白色の硫黄泉は、桜島を



「旅行人山荘」の足湯「龍石の湯」。桜島や錦江湾など眺望も抜群。夕日も美しい。



「霧島国際ホテル」別館の露天風呂「白紫」は青みがかった乳白色の硫黄泉。広々としてリラックスできる。

望む大浴場の露天でも楽しむことができる。また、森の中には他にも貸し切りの露天風呂で、無色透明の「もみじの湯」と「ひのきの湯」もあり人気だ。

「この醍醐味は、お湯とともに四季折々の風景をお楽しみいただけること。今朝は雲海も見えましたよ」と語るのは営業支配人の柘木正利さん。錦江湾を望む足湯の「龍石の湯」から、運が良ければ雲海に浮かぶ桜島や、美しい夕日を見ることができるだろう。

\* \*

霧島神宮から車で15分ほどの山の上に建つ「霧島国際ホテル」。南向きの客室からは、立ち上る湯けむりや檜など、温泉地らしい眺めが広がる。

「この辺りは1m離れれば温泉に当たると言われていますよ」と営業部の忠鉢盛雄さん。その豊富な湯量を生かし、多彩な9つの湯が設けられている。もっとも白濁しているのが、別館にある露天風呂「白紫の湯」。広々とした岩風呂に濃い乳白色の湯が満ち、岩や緑を配した日本庭園を愛でながらゆったりと心身を癒すことができる。

本館にある露天風呂「霧乃湯」は、白



「霧島国際ホテル」の露天風呂「霧乃湯」は薄い乳白色。アーチ型の個性的な木造の建物の向こうは完全に露天風呂になっている。



「霧島国際ホテル」の大浴場。大きな浴槽のほかに打たせ湯や寝湯、歩行湯などもありバラエティに富んでいる。



「霧島国際ホテル」で女性に人気の温泉泥パック。美肌効果のほかに、捻挫や骨折など痛みのある部分の治療にも使われるという。

濁はやや少なく、光の具合によっては青みがかって見えることも。天然木の美しいデザインの屋根が設えられ、森にいるような安らぎが感じられる造りになっている。源泉は1つだが、源泉から離れるほどにごりが減るのだそうだ。

また、「霧島国際ホテル」に宿泊の女性客の7割が利用するというのが

「霧乃湯」にある泥パック。温泉泥は有機物を溶かすため、皮膚をきれいにする美白効果があるそうだ。この辺りではツルツルの肌を「キングキング」と言うそうだが、多彩な温泉浴とのダブル効果で、美肌になれること間違いなしである。

ところで、霧島はあの坂本龍馬がお



「妙見 石原荘」の特別客室「椿」の露天風呂。この風呂のためだけに源泉を引き、空気に触れることなく浴槽の下からお湯を出している。炭酸泉でよく温まる。目の前には緑と天降川。

龍を連れて日本で最初の新婚旅行に訪れた地としても知られる。新婚旅行と言っても、寺田屋事件で負傷した際の温泉療養が目的だったようで、その足跡を霧島市の「塩浸温泉龍馬公園」で



「塩浸温泉龍馬公園」にある「龍馬とお龍の縁結びの足湯」。龍馬が傷の療養で浸かった湯は褐色。



「龍馬とお龍の縁結びの足湯」で出会った中学の同級生2人と教師。よく一緒に旅行をしているそうだ。

たどることができる。公園には「龍馬とお龍の縁結びの足湯」もあるので、かつて龍馬も薬効に与った塩浸温泉の足湯に浸かってはいかがだろう。

\* \*

霧島山系から流れ出る天降川沿いに位置する妙見温泉「妙見 石原荘」は、まさに湯を楽しむための宿。1万坪の敷



「妙見 石原荘」の「樟の木露天風呂」は、目の前を流れる天降川と一体になれるよう。

地内に源泉が6カ所あり、地中から自然に湧き出るお湯を加温も貯蔵もせず、熱交換器を通し適温にして浴槽に引いている。

とくに泉質にこだわっているのが特別客室「椿」の露天風呂だ。専用の源泉を持ち、温泉が地下から一度も外気に触れることなく浴槽に満たされる仕組



●黒川温泉 和風旅館美里  
熊本県阿蘇郡南小国町黒川温泉/  
☎0967-44-0331



●地獄温泉 清風荘  
熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽2327/  
☎0967-67-0005



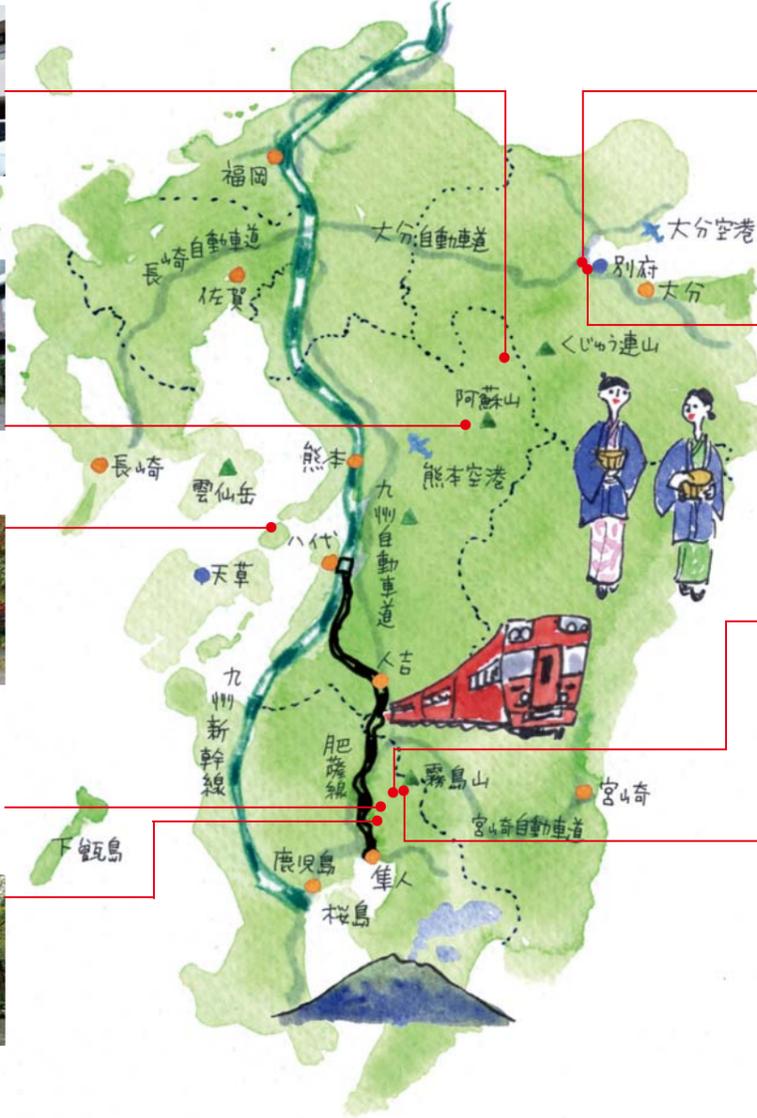
●弓ヶ浜温泉 湯楽亭  
熊本県上天草市大矢野町上弓ヶ浜  
5190-2/☎0964-56-0536



●塩浸温泉 龍馬公園(足湯)  
鹿児島県霧島市牧園町宿窪田3606  
番地/☎0995-76-0007



●妙見温泉 妙見 石原荘  
鹿児島県霧島市隼人町嘉例川4376  
番地/☎0995-77-2111



●明礬温泉 岡本屋旅館  
大分県別府市明礬4組/  
☎0977-66-3228



●観海寺温泉 いちのいで会館  
大分県別府市上原町14-2/  
☎0977-21-4728



●霧島温泉 旅行人山荘  
鹿児島県霧島市牧園町高千穂3865  
番地/☎0995-78-2831



●霧島温泉郷 霧島国際ホテル  
鹿児島県霧島市牧園町高千穂3930  
番地12/☎0995-78-2621

み。湯の表面がわずかに波打っているのは、浴槽の壁から温泉が絶え間なく出ているためだ。湯は外気に接するほど質が劣化していくと言われるので、まさに最高の湯を楽しむために作られた露天風呂である。

その炭酸泉の湯に肌を沈めると、細

かい気泡がびっしりとつき、新鮮さは一目瞭然。色はわずかに乳白色。常務取締役の石原大佑さんは「源泉は無色透明ですが、外気に触れることで白っぽくにごります。内湯の大浴場は茶褐色になります。いずれもお湯のパワーがとても強いので、浸かった後は体が

疲れ、ぐっすり眠れます」とのこと。露天風呂から眺める天降川の景観は素晴らしく、聞こえてくるのは川の流れと鳥の鳴き声。極上の時間を過ごすにはもってこいだろう。

また、天降川のすぐ横には「樟の木露天風呂」、ライトアップが美しい貸切露天風呂「睦実の湯」などもあり、著名建築家たちによる風景によく溶け込んだ建築美も見もの。泉質だけでなく、さまざまな演出も楽しく、素晴らしい温泉宿である。

\* \*  
バラエティに富んだ九州の名湯、秘湯は、泉質も効能もさまざま。宿に泊まったのんびりと味わい尽くすのがお勧めである。



「妙見 石原荘」の大浴場。彫刻家・池上直による壁面のレリーフも個性的。無色透明の源泉が空気に触れることで茶褐色になる。大浴場からも天降川を望むことができる。



「妙見 石原荘」の露天風呂「睦実の湯」。昼は開放的な雰囲気、夜間はライトアップされ、幻想的に。

# 栃木で “一期一湯”

温泉の成分や気温、時間などによって色が変わるにがり湯。自然の景観も日々変化するなか、“一期一湯”をキャッチフレーズに地域で連携してPRに努めているのが「とちぎにがり湯の会」。現在、35軒の宿が加盟している。そのなかから奥鬼怒、日光湯元、塩原のにがり湯を訪ねた。



「加仁湯」の混浴露天風呂。正面は50mほどの断崖絶壁で、滝が細く流れ落ちている。乳白色のにがり湯と四季折々の深山の眺めが自慢。混浴だがバスタオルを使用しての入浴も可能だ。

## 野趣あふれる景観も魅力 奥鬼怒温泉と日光湯元温泉

名湯、秘湯の多い栃木県。首都圏からのアクセスがよく、観光スポットも多い鬼怒川温泉郷が人気だが、目的地はさらにその先の山奥。鬼怒川の源流付近に位置する奥鬼怒温泉郷である。

女夫淵から先の奥鬼怒スーパー林道は一般車両の進入は禁止。つづら折りの山道を送迎バスに揺られること20分ほどで「加仁湯」に到着する。人里から遠く離れ、温泉をじっくり楽しむにはぴったりの一軒宿である。

標高1,350mにあり、もともと登山客のための山小屋としてスタート。山小屋と言っても建物は立派な鉄筋4階建てで、快適な環境で秘湯を満喫することができる。自家源泉を5本持ち、にごるのはそのうちの4本。すべて源泉かけ流しだ。

「温泉は入ってこそ価値があります。」



「加仁湯」は初代が鬼怒沼湿原への登山客のための宿として創業し、小松輝久さんで3代目。「とちぎにがり湯の会」をスタートさせてから、にごり湯の認知度も上がっているという。



「加仁湯」の泉質の異なる5本の源泉が楽しめる、“利き酒”ならぬ「利き湯 ロマンの湯」。それぞれ「たけの湯」「崖の湯」「岩の湯」「黄金の湯」「鬼怒川の湯」と名がついている。5本中、丸い木桶の「たけの湯」だけが硫黄分を含まない温泉で、無色透明。ほかの4本は炭酸ガス、硫化水素を含み、“にごり”が生じる。どれも2〜3人が入れればいっぱいの小さな浴槽のため、温度管理が難しいとのこと。色や肌触りの違いを比べてみては？

泉質も雰囲気もさまざまですし、にごり湯に入ればにごっていないお湯の良さもまた感じるでしょう。もちろんその逆も。ぜひご自分の好みのお湯を探してください」と語るのは3代目社長の小松輝久さん。「加仁湯」は「とちぎにがり湯の会」の事務局も務め、小松社長はその発起人であり、代表だ。

会が発足した経緯について「にごり湯をブランドとして売っていこうと十数年前に始めました。同じにごり湯でも色はさまざまで、その日の湯量や気温、気圧などで変わります。周囲の風景も含めれば、同じ条件のお湯に巡り合うことは二度とないでしょう。その時その時を楽しんでいただきたいと“一

期一湯”をうたっています」とのこと。初冬のこの日は、周囲の木々は葉が枯れ落ち、霧が立ち込めていた。では、お湯の具合はどうか。

露天風呂は女性の方が広い。岩風呂が2つ並んでいて、源泉は同じだそうだが色は明らかに違う。一方は乳白色で、もう一方は青みがかった白だ。「加仁湯」は谷間の川沿いにあり、目の前は切り立った断崖。時には鹿やカモシカ、猿が崖にやってくるという。自然のままの風景を眺めながら、熱すぎない湯にのんびりと体を沈めることができた。

ユニークなのが、小さな露天風呂が5つ並んだ「利き湯」。常連客のリクエストで始めたそうで、5つの源泉の違い



「加仁湯」の女性用露天風呂。手前と奥に2つの岩風呂が並び、色も異なる。お湯を入れる順番でにごり具合も変わるという。



「加仁湯」の露天風呂。冬は一面の雪景色の中、青い湯の色がより映えるだろう。春夏は緑、秋は紅葉と、眺めは四季折々で変化する。



「加仁湯」は内湯もにごっている。洗い場は内湯のみにある。



「森のホテル」の露天風呂。女性用の方が広く、色はきれいなターコイズグリーン。人のいない夕方は、猿が風呂の近くまで来ることもあるという。



「糸びすや」の混浴大浴場。左が1200年の歴史を持つ名湯「梶原の湯」。ぬるめだがよく温まる。右が少し熱めの間欠泉「弘法の湯」。

を比べることができるので、ぜひお試しを。「加仁湯」はどれも酸の成分が弱いのが特徴で、1日に何度も入ったり、長く浸かることができる。「人が持つ自然治癒力を最大限に高めるのが温泉の力。あごまで10分以上浸かって代謝を高めてください。出た後は布団の中で徐々に体温を下げるといいですよ」とコツを教えていただいた。

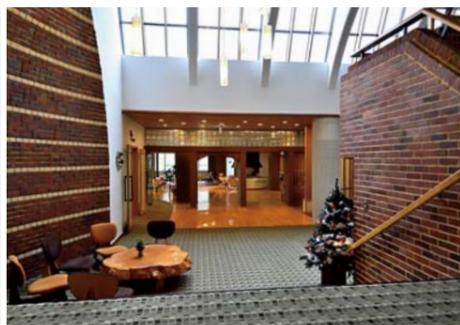
\* \*

中禅寺湖畔から戦場ヶ原を抜けると、標高がますます高くなる。やがて見えてくる湯ノ湖の北岸に広がるのが、目指す湯元温泉だ。温泉宿は全部で23軒。どこも同じ源泉から引いているため、成分や効能は同じ。硫黄成分は日本で4番目の濃さという。

標高1,500mの森の中に建つのが、その名も「森のホテル」。5年前にリニューアルしたという館内に入ると、天井が高く、明るく開放的な造り。ぬくもりを感じるのは木や煉瓦が多く使われているためだろう。支配人の植田正和さんいわく「ロビーだけでなく、客室やダイニングも女性を意識したデザイン



左：「森のホテル」の男性用内湯。雪景色を眺めながらゆったり浸ることができる。



右：明るくて開放的な「森のホテル」のエントランス。奥のラウンジでは演奏会などイベントも行なわれる。

にしました」とのこと。平日は7割が女性客で、露天風呂も女性用の方が広い。その湯は鮮やかなターコイズグリーンで、ゆらゆらと立ち上る白い湯気も幻想的で美しい。見た目だけではない。肌の新陳代謝を高めるメタケイ酸含有量が非常に高い、いわゆる“美肌の湯”である。まさに女性にうれしい温泉なのだ。湯の色は、透明の源泉が空気に触れることでエメラルドグリーンに変わり、時間が経つと徐々に白濁して、最後は乳白色に変わるのだそうだ。日本の名湯百選にも選ばれている。

「この辺りは特別なものは何もありませんが、そのぶん自然を満喫してのんびり過ごしてください。冬は星がとてもきれいです」と植田さん。裏手にはスキー場がオープンし、スキーや雪遊びを楽しむこともできる。また、夏場の平均気温も18℃くらいなので、避暑で長期滞在する客も少なくないそうだ。

### 古湯に浸かり歴史を感じる 塩原温泉

平安時代に発見されたという栃木県屈指の古い歴史を持つ塩原温泉郷。箒川の溪流に沿って連なる11の温泉地は

“塩原温泉11湯”と呼ばれている。

その1つが塩原温泉発祥の古湯、元湯温泉だ。江戸時代初期は奥州会津への近道として「元湯千軒」と言われるほど賑わっていたという。老舗旅館「糸びすや」は、塩原でもっとも古い1200年の歴史を誇る「梶原の湯」を持っている。1659年にこの地を襲った大地震で唯一難を免れた源泉だそうだ。

その「梶原の湯」は混浴で、ぬるめの炭酸泉。「最初はぬるく感じても、長く浸かっていると炭酸ガスの作用で、出た後はすぐ温まっていますよ」と若女将の佐藤美佐江さん。

風呂場の入り口には飲泉所があり、地中から湧き出たばかりの「梶原の湯」を飲むこともできる。



「糸びすや」の若女将、佐藤美佐江さん。温泉入浴指導員の資格を持ち、入浴の仕方や飲み方など、利用客に丁寧にアドバイスもしてくれる。家族で協力して旅館を運営している。



「糸びすや」の飲泉所。とくに胃腸病に効果がある「梶原の湯」を飲める。



「糸びすや」の女性風呂「弘法の湯」。乳白色で肌触りがとても優しい。慢性婦人病や糖尿病などに効果があるとされる。

湯」を飲むこともできる。胃腸病や糖尿病、肝臓病、痛風、便秘などに効果があるそうで、口に含むとわずかに炭酸が効いているのがわかる。昔から胃腸に良いことは知られており、「梶原の湯」を釜で煮詰めて薬にして販売していたそうだ。その製薬所が徐々に形態を変えて、現在の旅館「糸びすや」になったそうだ。

温泉はほかに「弘法の湯」があり、こちらは硫黄泉。熱めだが、お湯がやわらかいから気持ちよく長く浸かることができる。温泉成分が染み込んだ板

壁も情緒たっぷりだ。

現在も自炊の湯治客を受け入れており、木造の館内の造りとともに湯治宿の名残を感じる。若女将の気さくな人柄にも癒される元湯の名湯だ。

\* \*

「糸びすや」から車で20分ほど走ると、塩原温泉の老舗「明賀屋本館」に着く。深い緑に覆われた鹿股川のほとりにあり、那須塩原駅からはバスで1時間ほどだ。

館内の地下1階から長くて急な階段をひたすら降りていくと、野趣あふれ



「明賀屋本館」の露天風呂は、すぐ横に鹿股川が流れ、野趣あふれる環境で入浴ができる。



「明賀屋本館」の女性用の川岸露天風呂は布で仕切りがされている。混浴露天風呂に比べてごりが少ない。ほかに貸し切り露天風呂もある。



「明賀屋本館」の川岸露天風呂。色はずかしく白濁。24時間利用が可能で混浴だが、朝6時から8時は女性専用になる。2015年の豪雨で一部が壊れ、補修中だ。

る川岸露天風呂に出る。鹿股川のすぐ横にあり、いまにも川面に手が届きそう。わずかに緑がかった乳白色は川の色とも似ている。秘湯ファンやアウトドア派にも人気のように、せせらぎを聞きながら浸かれれば、まさに自然と一体になれる造りである。

温泉は330年前から枯れることなく湧き出ているといい、江戸時代に思いを馳せて湯に浸かるのもまた一興。混

浴の川岸露天風呂は24時間入浴が可能で、布で仕切りを設けた女性用の川岸露天風呂もある。

\* \*

自然も宿の佇まいも、そして色も泉質も変化に富んだ栃木の温泉。「とちぎにごり湯の会」では、お得な割引が付いた公式ガイドブックも販売している。参考にしながら“一期一湯”の出会いを楽しんではいかがだろう。

「とちぎにごり湯の会」のガイドブック(税込500円)。立ち寄り湯割引や宿泊特典があり、各会員宿で販売している。



雪景色の中、にごり湯で温泉三昧。至福のひと時が訪れるに違いない。



●奥鬼怒温泉 加仁湯  
栃木県日光市川俣871  
☎0288-96-0311



●日光湯元温泉 森のホテル  
栃木県日光市湯元もみの木通り/  
☎0288-62-2338

●「とちぎにごり湯の会」公式ホームページ <http://www.tochigi-nigoriyu.com/>



●塩原元湯温泉 あびすや  
栃木県那須塩原市湯本塩原153  
☎0287-32-3221



●塩原温泉 明賀屋本館  
栃木県那須塩原市塩原353/  
☎0287-32-2831